

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 限界まで削ぎ落とし素材美を追究

佐川 岳彦 柄木／竹芸家

スーパーバイザー  
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日、プレゼンテーションにて

「伝統」を守りながら「新しい感覚やテクノロジーを吹き込む」「地域の特性を深めながら、その魅力を世界へ広く発信する。LEXUSが掲げる「律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。

柄木県選出の匠、竹芸家の佐川岳彦さんのモノづくりへかかる思いと完成した作品を紹介する。



商談スペースの様子

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギヤラリー高輪で行われたコンサルティングを経て、匠たちが選出され、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・ショッピングセンター・高輪で行われたコンサルティングを経て、匠たちは自身のアイデアを磨き、プロジェクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロジェクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大

ポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロジェクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト)、下川一ト・プロデューサー、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、小山薰堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッショ

## レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)が「日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。



プレゼンテーションの様子

**竹本來の美を表現**

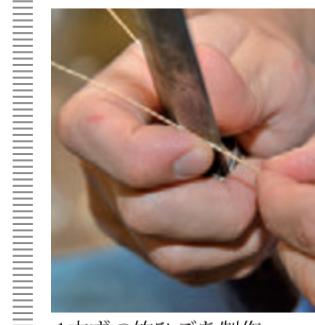


エリア・コンサルティングにて

佐川 岳彦  
柄木／竹芸家

1984年柄木県大田原市生まれ。大学卒業後、設計事務所での仕事に従事。父であり竹芸家でもある佐川素峯に師事。現在「竹工房素竹庵」にて修行を積み、作家としての活動を行う。【直近の活動実績】2018年Singapore Art Week／シンガポール、立夏の候展／東京 shizen

## 経年変化する竹との暮らしを愉しむ



1本ずつ竹ひごを制作

9月に行われたエリア・コンサルティング。佐川さんは3種類のモビールを試作し、サポートメンバーの川又俊明氏にアドバイスを仰いだ。ヒントとなつたのは、「日本にはまだ、インテリアとして生活空間にモビールを吊すという文化は浸透していないような気がする」という川又氏の言葉だった。佐川さんの頭に浮かんだのは、現代の生活空間に自然に溶け込みながら、決して存在を主張せず、生活する人と共に年月を重ねていく才

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親である小山薰堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッショ

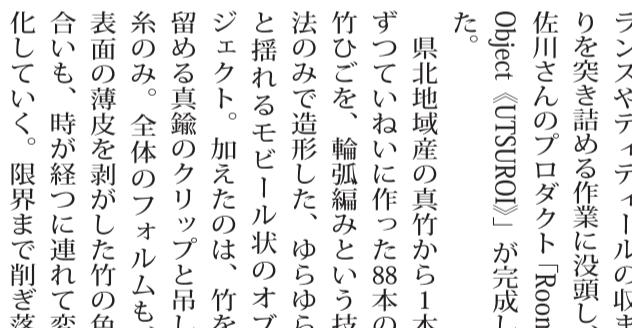
ン・ジャーナリスト)、下川一ト・プロデューサー、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、小山薰堂氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、生駒芳子氏(ファッショ

ン・ジャーナリスト)、下川一ト・プロデューサー、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、小山薰堂氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、生駒芳子氏(ファッショ

ン・ジャーナリスト)、下川一ト・プロデューサー、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、小山薰堂氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーよりも、生駒芳子氏(ファッショ



完成プロダクト「Room Object《UTSUROI》」



佐川さんの作業風景



佐川さんの作業風景

「竹の潔さと強さ。プレゼンテーションでは、そのシンプルな作品に込めた熱い思いをバイヤーたちに伝えた。」  
「削ぎ落とすというもののづくりは大きな収穫でした」と話す佐川さん。今後の作品にも大きな期待が寄せられている。

「技術も造形的にも、すべてを限界まで削ぎ落とすことで、私が知る竹の美しさを私らしく表現したいと思いました。それは、これまで私が携わってきたものづくりとは真逆のアプローチ法です」  
「削ぎ落とすというもののづくりを見い出せたことは大きな収穫でした」と話す佐川さん。今後の作品にも大きな期待が寄せられている。

**LEXUS  
NEW  
TAKUMI  
PROJECT**